

○心の教育センターの相談機能の強化 ○各学校の校内支援体制の確立と充実 ○効果的な具体的支援の実施

心の教育センターの相談機能の強化

【これまでの課題】

- ◆学校等からのニーズにタイムリーに支援できる体制づくり
- ◆多様な相談ニーズに対する高度な専門職員の配置
- ◆ハイリスクケース(緊急事案)への継続的支援の実施
- ◆職員の相談スキルの向上

【対応策】

- ◆高度な専門性を有するSC(SV)・SSWの常駐配置
- ◆心の教育センターSC(SV)・SSW等による学校支援の充実
- ◆緊急事案及び重篤(長期化)ケースへの継続的な支援の充実
- ◆関係機関とのネットワークの構築及び連携支援の充実

【具体的取組】

- ◆SCの配置増と力量の向上
- ◆学校配置SCのためのプラットフォーム機能の発揮
- ◆緊急事案(自殺企図、自傷行為等)への緊急対応(SV等)
- ◆学校及び関係機関とのケース会議の開催(参加)



相談活動の現状と課題

【相談実績】

◎来所・出張(訪問)相談件数(9月末現在)

受理件数 H28 241件 → H29 227件
 延べ件数 H28 1,154件 → H29 1,262件

◎電話相談件数(9月末現在)

延べ件数 H28 496件 → H29 532件

◎メール相談件数(9月末現在)

延べ件数 H28 66件 → H29 63件

※主な主訴は、不登校や本人の性格・行動、学校生活等であるが、SC等の常駐配置や学校及び関係機関との密接な連携により、困難な相談内容に対してもより効果的な支援がなされるようになった。

<成果>

相談延べ件数や電話相談件数は依然として増加傾向にある。

【今後の課題と対応】

■近年、社会の変化からメールを媒体とした相談が激減しており、現代の子どもたちの実態に応じた「ツール(SNS)」の活用も検討する必要がある。

校内支援体制確立への支援

【これまでの課題】

- ◆学校からの依頼に応じて実施するため、支援システムの確立が難しい。
- ◆学校により課題が異なり、支援体制や教員の意識に格差がある。
- ◆支援会の調整担当者(コーディネーター)の力量によるところが大きい。
- ◆支援会は設置しても十分に機能(開催)していない学校が見られる。

【対応策】

- ◆学校の組織的な支援体制確立のための支援の強化
- ◆各学校からの要請に応じた校内支援会への参加(SV・指導主事)
- ◆効果的な校内支援会の在り方についての啓発(指導資料等)
- ◆外部人材(SC・SSW)の積極的活用の促進

【具体的取組】

- ◆校内支援会活性化重点支援校(小学校10校)の指定
- ◆心の教育センター配置のSC・指導主事による定期訪問(月1回)
- ◆校内支援会の充実に向けた具体的方策に関する助言・指導
- ◆学校及び関係機関とのケース会議の開催(参加)
- ◆コーディネーター及び学校配置SC等との連携・支援(SV・指導主事)



学校支援の現状と課題

【学校支援の現状】

◎重点支援校への訪問回数 計55回(10月末現在)

・校内支援会の意義や運営に関する支援及び助言

◎重点支援校以外の訪問回数 計147回(10月末現在)

<成果>

- 参加者全員が情報や支援方法を出し合い、組織で対応する意識が高まってきた。
- 校内支援会の中で、「見立て」に基づいた「支援方法」が意識的に協議されるようになってきた。
- 「支援シート」等を活用して、子どもの環境や状況を多面的に把握するようになった。

【今後の課題と対応】

■担任の判断で校内支援会にあげられない子どもの事案も見られるため、課題の軽重に関わらず、気になる子どもをすべて組織で共有することを徹底する必要がある。

■支援後の効果や子どもの変容についての検証が十分ではない状況も見られるため、校内支援会におけるPDCAサイクルをさらに充実させる必要がある。